

1年生の皆さんへ 昨日のいじめ防止講座を振り返ろう

昨日の「あじじの会」の2名の先生方の話を覚えていますか？

いじめる人・いじめられる人 どちらが多い？ → いじめる人が多い → なぜ？ → 集団でいじめるから

いじめる人はずっといじめる側？

そんなことはありません。いじめていた人（加害者）が逆に別の誰かからいじめられる側（被害者）になることはいじめ問題でよく目にすることです。

「いじめ？」 「いじめじゃない？」 どこで判断するの？ （プロレスごっこのイラストでしたね）

君たちの仲間からは、次のような判断のポイントが出されましたね。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| A：周りの反応から判断する | B：本人（されている人）の気持ちで判断する |
| C：一方的かそうでないかで判断する | D人数のバランス（どちらが多いか）で判断する |



いろいろな意見が出されましたが、一番の判断ポイントは？

覚えていますか？

Bでしたよね

いじめは、被害者と加害者だけの問題？

見ている人やいじめがまっていることを聞いた人も傷つきます。

いじめ問題は、加害者と被害者だけの問題ではないのです。見ている人も巻き込む全体の問題です。

★「一つのいじめは、みんなの危険信号」

（係活動：新聞づくりの場面のイラストから）

人を困らせる・困っている人をさらに困らせる・困っている人を見て笑う・周りで見てるだけ…これっていじめ？

人にはそれぞれ得意なこと、不得意なことがあって当然ですが、それを理由に人を傷つけることはいじめです。

「いじる・いじられる」関係 これは？

いじめにつながる『危険な関係』です。周囲の人も「またか・・・」ではなく、いじられている人を守る必要があります。

集団が作り出す危険な「いじめモード」とは？

いじる行為が、「いけない、相手が嫌がってる」と気づいて1回で終わるものと繰り返されるものがあります。

集団の中で、「いじられる状態」を見ている周囲の人は、「次は自分がやられるかも」「関わらないようにしましょう」という気持ちになって、結果的にいじめにつながる危険なモードのことで。

このモードになったら、だれも「いじめ」や「いじり」を止められません。みんなが安心して生活できない状態です。

あなたは、いじめ・いじりが広がっている集団の中で生活したいですか？
覚えていてもらいたいのは、「集団にはいじめを止める力もきちんとある」ということです。
いじめを阻止する集団の雰囲気を作るには、どうしたらいいのでしょうか？

1 気づいたらほっとかない

「大したことじゃない」と考えるのではなく、いじめが起こっていることを誰かに話をすること
友人や先輩や信頼できる先生や大人に、いじめが起こっていることを伝えることが大事です。

「チクリ」といわれないかなあ……

人から「チクった」と言われたらと思う人がいますが、「チクリ・告げ口」と『相談』とは全く別です。
チクリとは、自分が得をしようとする告げ口のことであり、いじめられている人を救うための『相談』と大きく違います。チクったなと言っている人の方が危ない人ですね。その人の将来も心配です。チクったなという人のことも信頼できる人に相談して、そんな状況から救ってあげましょう。

2 止めることができるならきちんと止めてあげよう

- ・直接止めることができる。 ・仲間と一緒になら止められる
 - ・それもできないなら、いじめられている人のそばに近づいていこう
 - ★いじめられる人を一人にしないことも「いじめ」を止める効果があります。
 - ・そばにいて「大丈夫？」「一緒に相談に行こうか」と声をかけてあげる
 - ・「いつもはあいさつすることは少ないけど、あいさつして元気づけよう」でもいいのです。
- とにかく「困っている人を一人にしない」モードに集団を生まれ変わらせよう。

3 人権を守る勇気を持とう

一人ひとり、人権があります。日本国憲法という法律で決められています。それを侵害する行為であるいじめは、法律違反です。

間違っているのは、「いじめるほう」です。いじめられたら、とにかく早くSOSを出そう。

「周囲でいじめがあったら……」、 「自分がいじめられたら……」
「今、自分がやっていることは、いじめかも……」

気が付いたら、行動に移しましょう。勇気をもって動きましょう。

いじめがない集団は、心地よく、安心して可能性を伸ばすことができる豊かな大地のような集団です。そんな集団にしていくのは、一人ひとりの行動です。君たちならきっとそんな集団に近づくことができると信じています。